

1. はじめに

人は写真を撮る際に構図(アングル)を頭の中で考える。一体写真はどのように撮ったら、対象物を美しく魅せることができるのか。また、より美しく撮るにはどのような方法があるのか。この研究で得られた結果は、建築物を撮影する際に参考にすることで、より魅力的な姿で写真に収めることができるのではないかと。

良い写真を撮るための法則を集める調査をいくつか実施し、集めた法則の有効性を調べる実験を行った。

2. 調査1(風景の切り取り方についての実験)

46枚の写真から、それぞれ5パターンずつランダムに切り取った画像を作成し、合計230枚の好ましさの評価をさせた。

5つのパターンに評価のばらつきが大きく生じた6枚の画像について解析した。図1と図2の対象物は塔と桜であるが、評価は図1の方が1.5高いのは途中で切れたような印象を与えるためだと思われる。山脈やビルなどについても同様の特徴がみられた。

また、被写体の魅力が低いと、切り取り方によらず評価が低いという事例も見られた。

3. 調査2(雑誌・webからの資料集め)

良い構図の写真の撮るには、いくつか基本となる法則があるのではないかと考えた。そこで、インターネットや写真雑誌を調べて、良いフレーミングをするための法則を集めた。しかし、法則によっては、建築写真に適用しにくいもの(図3)もあるように思えた。

4. 調査3(建築写真の収集・分類)

誰もが良いと思う建築写真には、何か共通するものがあるのではないかと考え、インターネットで良いと思った建築画像を収集し、共通点ごとに分類することで、美しい構図の法則の候補とした。

5. 調査4(集めた法則の有効性を調べる実験)

調査1・調査2・調査3から得られた26の法則が、どのような対象物に有効かを調べるため、様々な形状の建築物を法則にあてはめて撮影し、法則の有効性を調べる実験を行った。対象物をビル、神社・寺、美術館、街並みに絞り、それぞれ3種類の計12種類を実験対象にした。そして集めた画像163枚を、被験者30人に5段階で評価してもらった。

法則ごとの評価平均を算出し、考察した。3.8以上の高評価を最も得た法則は、手前に何か写し込んだもの(図4)であった。さらにこのサンプルは、ビル、神社・寺、美術館の3種類の対象物を含んだものであったため、被写体の形状に左右されずに評価を上げる最も効果的な法則であるとわかった。逆に被写体の上部をアップで撮影する方法(図5)は、ビル、美術館、街並み



図1 評価平均 4.4 の画像

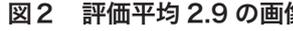


図2 評価平均 2.9 の画像



図3 三分割法

被写体を1:2
や2:1に配
分する方法

表1 収集された法則の有効レベル

写り込みがある	△	対角線構図	△
面白味の有無	○	直線による構図	△
三分割法	◎	パターン構図	△
垂直な線がフレームに沿っている	○	上部のアップ	×
空間を空けない	×	下部のアップ	△
被写体全体が収まる	○	壁面のアップ	×
背景が単純である	◎	側面から写す	○
トンネル構図	○	地面や庭を広く写す	○
交点上に被写体を配置	◎	画面いっぱいに斜めから写す	○
日の丸構図	◎	道も写す	○
曲線構図	○	少し見上げて全体を写す	○
シンメトリー	○	足下から見上げる	△
三角型構図	○	手前に何か写し込む	○

◎>○>△>
×の順で有効
性が高いと判
断している



図4 手前に何か
写し込んだ画像



図5 上部をアップで
撮影した画像

において2.2以下の評価を4つ得たため、上記の被写体を撮影する際は、評価をあげることは期待できない法則であった。

6. まとめ

4つの調査を終えて、対象物ごとに有効であった法則をまとめてみた。

(1) ビルについては、「画面いっぱいに斜めから写す」「背景が単純である」などの評価が高く、空間を画面に取り入れられない画像は評価が低かったことから、ビルのような平面的な対象物は、斜めから撮影し立体感を出すことが有効的であるとわかった。(2) 神社・寺においては、広い庭や参道を写し込み「交点上に対象物を配置する」方法が効果的だと言えるのではないだろうか。(3) 美術館は「手前に何か写し込む」ことや「建物の側面から写す」などして、平面的な外観に奥行きをプラスさせることで、より良い写真が撮影できるだろう。(4) 街並みについては、「道を写し」「シンメトリー」になるように意識することで、奥行き感を出すと、安定した写真となるのではないだろうか。

「背景が単純である」「手前に何か写し込む」「建物の側面から写す」などは、どの対象物に対しても比較的有効な法則であった。